

仁瀬本神社神楽

― 伝統を紡ぎ

未来へ舞うー



「仁瀬本神楽の特色は舞のテンポの速さと大胆な振り。特に『五穀』や『八鉢』は重要な演目です。若い世代にも舞の楽しさを伝えていきたい」。団員間のコミュニケーションを最も大切にしている姿勢も、強い結束力に繋がっています。深夜まで続く夜渡神楽の奉納会は、まさに伝統の息吹が躍動する瞬間です。

江戸時代、天明5年（1785年）

に誕生した仁瀬本神楽。宮崎県五ヶ瀬町より伝授された舞は、以後、代々口伝で継承され、現在16名の保存会によって守られています。1月の「鈴起し」や秋の例大祭をはじめ、多くの祭礼で奉納され、地域の祈りと絆を象徴しています。



白石神楽

― 絶えることなき

祈りの舞ー

明治中期に始まり、白石地区の「お天道さん祭り」で奉納されていた白石神楽。その舞は地域の繁栄と平穏を願い、旧暦10月14日の伝統行事として受け継がれていました。しかし昭和55年を最後に途絶えた後、平成17年に有志が集まり神楽保存会を結成。平成18年12月4日に27年ぶりに復活を果たしました。現在は毎年11月第4土曜日に「お天道さん神楽祭り」と称し地域行事として継承されています。



白石神楽のルーツは鞍岡祇園神楽にあるといわれています。復活後、神楽保存会は約10年をかけて、1番から33番までの神楽を再現。そして今では16名が活動に取り組んでいます。「古くからの伝統をもっと多くの人に知ってほしい」と、白石神楽の灯火は受け継がれ、舞の輪が広がり続けています。



保存会では現在13名が活動中。九州山地神楽祭りへの出演は次へ繋ぐための大切な場でもあり、伝承の一步と語ります。「歴史ある巨木を見るたびに、この神楽も代々伝えていく使命を感じます」。舞と観客との交流を通じ、神楽の伝統を次世代に受け継ぎます。



永長元年（1096年）創建の高畑年祢神社は、農業神を祀る由緒正しき神社。宮崎県東臼杵郡から伝わったといわれる神楽や田植え踊りを現在も受け継ぎ、春季祭（御田植神事）や秋季祭で五穀豊穣への祈りを舞で表現しています。

境内には樹齢400年を超える巨木が30本以上聳え立ち、自然の息吹とともに伝統を語り継ぎます。

高畑年祢神社神楽

― 巨木に宿る

伝統の魂ー



田植えの後、田んぼで眠る獅子を起こして追い出す「獅子つり」が行われ、地域の農業の祈りを象徴する舞として代々受け継がれてきました。地域の歴史や人々の営みの中で育まれたこの伝統は、毎年5月3日の春季祭で奉納され、訪れた人々にその独自の文化を伝えていきます。



阿蘇の十二神のひとり、穀物の神「年祢の神」に捧げられる高畑年祢神社田植え踊りは、田植えの工程を表現した特異な舞で、全国的にも非常に珍しい伝統芸能です。法被に赤ダスキ、菅笠をまとった舞い手が太鼓の音に合わせて畔切りや田植えを模擬的に再現し、五穀豊穣を祈ります。

高畑田植え踊り

― 畔切から

田植えまでの祈りー